



Title	GLOCOLブックレット07 はじめに
Author(s)	栗本, 英世
Citation	GLOCOLブックレット. 2012, 7, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48344
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はじめに

栗本英世

大阪大学大学院人間科学研究科教授
科学研究費補助金「フード・セキュリティの人類学的研究」研究代表者

このブックレット『フード・セキュリティと紛争』は、科学研究費補助金の交付を受けて2010年度から開始された研究プロジェクト、「フード・セキュリティの人類学的研究」(基盤研究(A)、課題番号22242029)の最初のまとまった成果である。

大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)では、その設立当初から「多文化共生」と「人間の安全保障」(human security)の二つを研究課題の柱としてさまざまな研究プロジェクトを推進してきた。「フード・セキュリティ」は人間の安全保障と深く関連している。それは、人間の安全保障を根源で支えているとともに、人間と自然との関係、食料の生産・流通・消費、市場経済の浸透と生業経済、自由貿易と国民経済、健康と食品の安全といった多様かつ重要な問題群とのかかわる包括的な研究課題である。グローバル化する世界のなかでフード・セキュリティという課題の重要性はますます高まりつつある。GLOCOLでは、フード・セキュリティをテーマとする共同研究2件をすでに実施した。上田晶子特任准教授を代表者とする「食糧の安全保障に関する学際的研究:食糧確保のセイフティネットの事例の比較を中心に」(2008～2009年度)と住村欣範准教授を代表者とする「ベトナムにおける家庭果菜園を利用した栄養ケアとフード・セキュリティのモデル構築のための共同研究」(2008～2009年度)である。

研究プロジェクト「フード・セキュリティの人類学的研究」(基盤研究(A))は、これらの成果を受けて、2010年度から開始された。メンバーは、研究代表者である栗本、研究分担者である住村准教授、上田特任准教授および思泌夫(スチンプ)特任准教授の3名を中心とし、兼任教員をはじめGLOCOLとさまざまなかたちで関係のある国内外の研究協力者から構成されている。本プロジェクトが目指しているのは、グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルという各レベルのからまり合いに注目しつつ、世界各地

における人類学的フィールドワークと理論的研究、および開発研究者と理系研究者との連携を通じて、貧困概念を批判的に再検討するとともに、フード・セキュリティに関する総合的な人類学的研究をあらたに構築することである。

本ブックレットは、本プロジェクトの研究協力者であり、GLOCOL 兼任教員でもある松野明久教授(大阪大学大学院国際公共政策研究科)を組織者として2010年12月4日に開催されたワークショップ「フード・セキュリティと紛争」の成果である。ワークショップの成果がGLOCOLブックレットというかたちで公刊されるのは喜ばしいことである。松野教授を含む8名の発表者・寄稿者の皆さんに研究代表者として感謝申し上げたい。「フード・セキュリティの人類学的研究」が今後展開していくうえで、本書が指針となることを願っている。